



地域とともに進化し続ける病院

済生会宇都宮病院

連携 た* より

Topics

新院長就任にあたって

臨時号

2016.4

ご挨拶



院長 小林 健二

4月から栃木県済生会宇都宮病院の院長を引き継ぐことになりました小林健二でございます。日頃は当院の運営にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。副院長として地域連携部門を担当しておりましたが、引き続き地域連携を充実させたいと考えております。

当院は中核病院として地域包括ケアの一端を担う地域医療連携を行ってきましたが、高齢化問題、在宅ケアの重視から近年は医療だけでなく介護も含めた地域医療介護連携が重要になってきました。

当院の地域連携に関する沿革をみると、平成19年に連携医制度を立ち上げ、平成21年に地域医療支援病院となりました。9年間で紹介率は46%から75%に、逆紹介率は33%から66%に増加しました。これもひとえに皆様との連携の賜物と感謝しております。当院では地域完結型の医療を目指すため、かかりつけ医を前提とした外来診療の方向を推進し、逆紹介もさらに積極的に増やしていきたいと考えています。一昨年より地域連携を基軸に再診は専門性を考慮したうえで地域連携医療機関に逆紹介を推進する方針をとっています。初診患者数は減少していないものの、紹介での初診が増加しており、再診患者数も少しずつですが減少傾向で、かかりつけ医から大病院という流れが、定着しつつあります。

平成28年4月からは診療報酬改定により500床以上の地域医療支援病院として、紹介なしの患者さんには5000円の選定療養費が課せられます。このため当院としては紹介なしで来院された患者さんには、日頃連携をさせていただいている連携医への受診をお勧めしたいと考えております。

入院部門では引き続き在院日数の短縮、入院患者受け入れの増加に取り組んでおります。昨年度の新入院患者数は増加しており、連携医からの緊急を含む入院受け入れも増加しております。病院として更なるベッド確保を目標に掲げ、お断りを少なくするよう努力いたします。急性期機能を維持するためには後方連携は非常に重要であり、引き続き転院、在宅医療支援へのご協力をお願いいたします。

「とちまるネットワーク」や「どこでも連絡帳」といったICTによる情報の共有にも力を注いでいきたいと考えております。ふらってご参加をお願いいたします。

今後も高度急性期・中核病院としてまた地域医療支援病院として地域医療に貢献する所存ですのでご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。